

令和元年度(2019年度)高等学校OPENプロジェクト実施報告書(2年次)

研究指定校	北海道旭川農業高等学校	教育局	上川教育局
-------	-------------	-----	-------

1 研究主題	
地域連携機関との協働による未来のプロフェッショナルの育成 ～地域森林資源の循環利用に関するプロジェクト学習の展開～	
2 研究実践内容	
月	実施内容
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学年24名が、科目「農業と環境」において合同販売会を行い、森林科学科の生徒が生産した苗木や椎茸ほだ木、山菜等を来場した一般市民へ販売した。 ・ 2、3学年79名が、科目「総合実習」において「第1回地域みらい連携会議」の中で、今年度各専攻班が取り組むプロジェクトの計画発表を行い、構成員から質問や助言を受けた。 ・ 3学年39名が、科目「総合実習」において林業・林産業とはどのようなものかを知らない道外の高校生に対し、測量器械や林産物を活用したワークショップを実施した。(写真①)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学年40名が、科目「課題研究」において旭川周辺地域林業担い手確保推進協議会主催の「山の仕事説明会」に参加し、各事業体の方との意見交換を行い、林業・林産業界への理解を深めた。(写真②) ・ 1学年40名が、科目「測量」「農業と環境」「森林科学」において、上川町天幕演習林でコンパス測量を実施した。 ・ 2、3学年森林資源活用班20名が、科目「総合実習」において、旭川大学附属幼稚園年長組園児47名を対象とした「第1回木育教室」を本校森林科学科圃場・高木見本林で実施し、藍の定植とフィールドビンゴを行った。 ・ 2、3学年林産加工班14名が、科目「総合実習」において、有限会社ポットトラック代表前田あやの氏、上川総合振興局林務課長佐野弥栄子氏から針葉樹の有効活用について講演を受けた。 ・ 2学年40名が、科目「森林経営」「課題研究」において、北海道林業機械化協会、水産林務部林務局林業木材課、上川総合振興局南部森林室の協力による「林業技術現場体験学習事業」を実施した。士別市の高性能林業機械作業現場と当麻町の製材工場を見学し、林業林産業への就業へ向けた意識高揚を図った。 ・ 3学年森林環境班・森林資源活用班18名が、科目「総合実習」において、特別支援の高校生に対しワークショップを実施した。 ・ 3学年森林資源活用班10名が、「旭川デザインウィーク2019」に参加し

7月	<p>製作したスロープトイの展示、公開、アンケート調査を行った。(写真③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2学年 40 名が、科目「森林経営」「測量」「総合実習」において、本校、上川町、北海道大学との連携による「上川林業セミナー～天然生広葉樹の育成について～」を上川町で実施した。北海道大学北方生物圏フィールド科学センター吉田俊也教授から天然林施業について講義を受け、かき起こし現場の稚樹同定と昨年度植樹した苗木生育調査を行った。(写真④) ・ 3学年森林資源活用班 10 名が、「第 32 回もくもくフェスタ」に参加し製作したスロープトイを来場した一般市民に向けて公開展示を行った。 ・ 3学年が、科目「森林科学」「林産物利用」「総合実習」において、本校、下川町、北海道森林管理局、北海道との包括的連携協定に基づき、1泊2日の下川実習を実施した。3年間の総括として、下川町、下川町森林組合、上川北部森林管理署・上川総合振興局北部森林室の協力を得て森林調査や伐木現場作業員との意見交換、NPO法人の視察等を行った。(写真⑤) ・ 3学年 39 名が、科目「森林科学」「林産物利用」「総合実習」において、桜岡実習地での森林整備、トラバース・横断測量を行った。 ・ 2、3学年森林資源活用班 20 名が、科目「総合実習」において、旭川大学附属幼稚園年長組園児 46 名を対象とした「第 2 回木育教室」を本校見本林・育林棟で実施し、下枝払いと藍のたたき染めを行った。 ・ 1学年 18 名が、第 34 回森林の市において、一般市民に育苗した苗木・木工品の販売及びワークショップを開催した。 ・ 2学年森林資源活用班 10 名が、永山太陽認定こども園所属小学生に対して木工ワークショップを実施し、地域産業への理解を深めてもらった。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1、2学年 40 名が、北海道林業機械化協会の協力を得て、小型車両系建設機械運転の業務に係る特別教育を受講した。 ・ 2学年 40 名が、科目「森林経営」「課題研究」において、1泊2日の下川実習を実施した。下川町、下川町森林組合、上川北部森林管理署・上川総合振興局北部森林室の協力を得て、植栽後の下刈り・除伐作業を体験し、森林整備の流れを理解した。 ・ 2学年 40 名が、科目「課題研究」において、旭川周辺地域林業担い手確保推進協議会の協力を得て、主に林業・林産業事業者を中心に3日間のインターンシップを行い、林業・林産業に関する理解を深めた。(写真⑥) ・ 2、3学年森林資源活用班 20 名が、科目「総合実習」において、旭川大学附属幼稚園年長組園児 46 名を対象とした第 3 回木育教室を実施し、本校森林資源室で木琴作りを行った。
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学年 40 名が、科目「農業と環境」「測量」「農業情報処理」において、森林に関する知識・技術を活かし、大雪山系黒岳で植生調査を行った。 ・ 2学年森林環境班・森林資源活用班 18 名が、科目「総合実習」において、

10月	<p>特別支援学校の生徒に対し、今年度2回目のワークショップを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1学年40名が、科目「森林科学」「測量」「農業と環境」において、林業公務員との懇談会后、十勝岳治山工事現場の見学を行った。(写真⑦) ・ 1学年40名が、科目「森林科学」「測量」「農業情報処理」において、下川町、下川町森林組合、上川北部森林管理署・上川総合振興局北部森林室の協力を得て、苗木の植え付け作業並びに主伐後の地拵え現場、コンテナ苗生産現場を見学した。 ・ 3学年2名が北海道教育委員鶴羽委員の学校視察において、OPENプロジェクトの概要並びに森林科学科で行っているプロジェクト活動の一部について紹介した。 ・ 2、3学年森林資源活用班15名が、コープさっぽろ主催の「食べるたいせつフェスティバル」で、一般市民を対象としたスロープトイの実演公開を実施した。また、他ブースのボランティアも行った。 ・ 3学年39名が、科目「測量」において、SkyLinkJapanの協力で位置測定の仕事みやドローンデモフライトを体験し、撮影データの解析方法も学習した。 ・ 2学年40名が、科目「森林科学」「森林経営」「測量」「林産物利用」「農業情報処理」「総合実習」「課題研究」において、林業就業支援講習による資格取得及び視察研修を実施した。 ・ 1、2学年80名が、「農業と環境」「総合実習」において、「第2回地域みらい連携会議」に参加し、北海道大学院生による研究報告を聞き質疑を行った。(写真⑧) ・ 1学年40名が、科目「森林科学」「農業情報処理」において、林産試験場及び林業試験場の視察研修を実施し、林木の育苗、造林から活用までの林業に関わる最新情報を学んだ。 ・ 1学年40名が、科目「農業と環境」「森林科学」において、上川総合振興局林務課、旭東林産協同組合と連携し、森林施業地にて、高性能林業機械(ハーベスタ、フォワーダ等)の見学や操作体験、手鋸玉切り体験を実施し、これらの活用方法を学んだ。(写真⑨) ・ 2、3学年森林資源活用班20名が、科目「総合実習」において、旭川大学附属幼稚園の園児47名を対象とした第4回木育教室を旭川大学附属幼稚園で実施した。園児主導のフォトフレーム作りでは、子ども達の意見に合わせ作成を進め、他者尊重の意義を学んだ。 ・ 3学年森林資源活用班10名が、科目「総合実習」において、旭川大学附属幼稚園の年中小園児100名を対象とした「第5回木育教室」を本校高木見本林で実施した。園児の発達段階に合わせたサポートを行った。 ・ 2、3学年森林資源活用班20名が、科目「総合実習」において、旭川大学附属幼稚園の園児47名を対象とした「第5回木育教室」を本校で実施した。落ち葉を活用した園児の作品から園児の豊かな創造力を実感し
-----	--

11月	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 学年 1 名が、OPEN プロジェクト「全道フォーラム」に参加し、下川町と上川町との連携事業や、北海道大学の連携状況について中間報告を行った。 ・ 3 学年森林資源活用班 10 名が作成したスロープトイを浦和大学主催「第 3 回おもちゃコンテスト木材加工部門」に応募し、最優秀賞を受賞した。 ・ 森林科学科全生徒が参加し、科目「農業と環境」「総合実習」において、校内実績発表大会の学科予選を実施した。5 つの専攻班が一年間取り組んできた研究成果について、プレゼンテーションソフトを用いて発表した。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2、3 学年森林資源活用班 20 名が、科目「総合実習」において、旭川大学附属幼稚園の園児 47 名を対象とした「第 6 回木育教室」を本校で実施した。一年間を通してお互いを尊重、理解し合うことの大切さを学んだ。 ・ 全校生徒が参加した「校内実績発表大会」において、森林資源活用班と林業経営班が学科代表として発表を行い、森林資源活用班が最優秀賞を受賞し、北北海道大会への出場を決めた。 ・ 1 学年 40 名が、科目「農業と環境」において、造園緑化建設業協会の協力による出前授業を受講した。公園緑化の造成、維持管理方法を企業の方々から学んだ。
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学年 40 名が、科目「農業と環境」において、地域理解を深めるため、小グループで近隣市町村について調査し、その結果をポスターにまとめ、口頭発表を行った。また、これらの発表について生徒相互のルーブリック評価を行った。 ・ 2 学年森林資源活用班 10 名が、旭川市科学館で行われた「学生の科学展 2020」に参加し、一般市民へ向けてスロープトイの実演と公開を行った。また、市内他校生や学生との交流を深めた。 ・ 2、3 学年森林資源活用班 4 名が「北北海道学校農業クラブ連盟実績発表大会」へ本校代表として出場し、最優秀賞を受賞し全道大会出場を決めた。
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2、3 学年森林資源活用班 4 名が、「日本学校農業クラブ北海道連盟全道実績発表大会」へ出場し、最優秀賞を受賞し、10 月に静岡県で行われる全国大会出場を決めた。(写真⑩) ・ 1、2 学年 80 名が、科目「農業と環境」「課題研究」において、「旭川周辺地域林業担い手確保推進協議会主催林業・木材産業就業セミナー」に参加した。働くことに関するワークショップの後、各企業の方との意見交換を行った。

3 地域みらい連携会議の開催内容

第 1 回	令和元年5月24日（金） 13：30～15：30
出席者	柿澤委員、佐野委員、山本委員、小助川委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンプロジェクト概要説明 ・ 基調講演 ・ 実施計画案と実施状況 ・ カリキュラム・マップについて ・ 情報発信について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域により林業・林産業のあり方が異なることから、地域コミュニティを理解する人材育成には管内で幅広く実習を行うとよい。 ・ アンケートや卒業生に対する継続した調査など、様々な観点で評価するとよい。 ・ デザインという観点を取り入れ、人に伝えるためにどうすればよいかを考えることにより問題解決につなげるとよい。

第 2 回	令和元年10月8日（火） 13：30～15：30
出席者	柿澤委員、佐野委員、山本委員、小助川委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学年インターンシップ報告 ・ 専攻班プロジェクト中間報告 ・ 北海道大学大学院生による研究活動報告
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトからインターン、現場との関わりを広めると、生徒のやる気も高まるのではないかと。生徒が問題意識を持って現場で学ぶことで動機付けを引き出せるのではないかと。 ・ 生徒の発表内容の完成度が高い。様々な場で研究発表を行うことで業界からの意見や評価がもらえるかもしれない。 ・ 受動的でなく様々な学びに主体的にトライすることが大切である。 ・ 高校生ならではの発想も大事にすると、より面白いのではないかと。

第 3 回	令和2年1月21日（火） 13：30～15：30
出席者	柿澤委員、佐野委員、山本委員、小助川委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専攻班プロジェクト学習活動報告 ・ 今年度 OPEN プロジェクト実施状況報告 ・ 2学年インターンシップ実施状況、3学年進路状況報告 ・ 次年度に向けての指導助言
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトと日常の学習が結び付きつつある。学んだことをかみ砕いて、応用できるようになりつつあることがよかった。 ・ 全発表ともに北海道林業の課題を考えている。就職状況では、林業従事者が足りていない。担い手協議会としても取組を進めてい

	<p>かなくなくてはならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トドマツの発表では、木材にこだわりがなければ、材の提供など協力させてもらいたい。就職、実習の協力をさせてもらう中で近郊企業、地元の組合でも就職に繋がっているの、調査・研究などとおして就職に繋げてほしい。 ・発表を聞きに来るのを楽しみにしているが、一年間を振り返って成果が見られた。後輩に繋がっていくことがよい。インターンシップの受け入れ先は家具組合が対応可能である。
<h4>4 研究の成果と課題</h4>	
<h5>(1) 目的の達成状況</h5>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践研究におけるアンケート調査では、地域連携機関の協力を得て様々な事業を展開することで地域産業への理解が深まったと答えた生徒の割合が、1学年95.0%、2学年90.0% (92.5%)、3学年92.3 (89.3%) と昨年度同様に高い結果となった。(グラフ①) (定性的評価) ()内はH30学年次の結果。 ○ 林業・林産業理解プログラムの中で、第1学年は近隣市町村について調べ学習を行い、ポスターにまとめ発表し、生徒相互でルーブリック評価を行った。このことで、全員が地域理解を深めることができた。 ○ 3学年で卒業後、関連産業界に進学・就職する生徒割合が63.1%となり、評価指標としている70%に近づいた。(H30卒業生43.2%) (グラフ②) 	
<h5>(2) 目標の達成状況</h5>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年下川実習で事前・事後アンケートを行った。93%の生徒が初めて下川町を訪問し実習を行ったが、将来働いてもよいと答えたものが、12.5%から32.5%に増加した。実際の地域住民や仕事に触れる事で地域理解が進んだためと思われる。(グラフ③) (定性的評価) ○ 林業・林産業で行ったインターンシップに関わる各事業所からの生徒の総合評価は5段階評価で平均4.2 (H30平均4.1)であった。各事業所から今後努力が必要な点として、相手の目を見て話すこと、分からないところは周囲に聞くなど当たり前のことが求められていた。また「どんな人材を求めているか」の問いに、①明るい性格、②積極性がある(能動的に動ける)、③向上心があるという声が多かった。これらは昨年度とほとんど変わらない意見であった。(グラフ④) (定性的評価) ○ 進路希望調査結果 <ul style="list-style-type: none"> 1学年進学14.6%、就職41.5%、公務員36.6%、未定7.3% 2学年進学17.5%、就職30.0%、公務員45.0%、未定7.5% (H30 1学年進学10.0%、就職32.5%、公務員42.5%、未定15.0%) 3学年進学7.7%、就職56.4%、公務員35.9%、未定0.0% (H30 2学年進学12.8%、就職48.7%、公務員33.3%、未定5.1%) 	
<p style="text-align: right;">(表①) (定量的調査)</p> <p>学年進行による進路希望先に大きな変化は見られなかった。1学年は昨年度</p>	

より未定の割合が少なく進路希望が明確化されつつある。また、2学年は進路選択時期が迫ることもあり、昨年度より未定者割合が半減していた。進路が決まった3学年は2年後期から3年前期に進路先を決定していることから、今後さらに未定者は減ると思われる。(グラフ⑤) (定性的評価)

- 平成30年度森林科学科卒業生に対する調査において、林業・林産業に関わる就職者10名のうち離職者は1名。(全就職者23名中離職者は3名) (定量的調査)
- 就職した卒業生に「仕事をする上で身に付けておいたほうがいい能力」を聞いたところ、コミュニケーションスキル(1位)とチームワーク(2位)と答えた者が多かった。(グラフ⑥)
- プロジェクト活動を通して身に付けた専門的な知識・技術を、幼い子どもから、小学生、高校や特別支援学校の生徒、そして一般市民まで、世代に合わせ内容を変え伝えることができた。
- 新たに市内高校・大学と協働で一般来場者向けのワークショップを開くことができ、さらに互いの取組について理解することができた。次年度も開催する方向で検討している。
- 教員は生徒が日頃の学習で学んだことを一般市民へ伝えること、または外部で成果発表することで、生徒に自信とやる気の醸成に繋がっていると実感することができた。(定性的評価)
- 北海道大学と上川町との共同事業は、昨年度実施した内容を継続した形で実施でき、「とても興味を持った」、「興味を持った」という生徒が87.2%になった。予想と調査結果の違いやその原因を考えることで、課題発見力や論理的な考え方を育むことに繋がっている。(グラフ⑦)
- 周辺地域を理解するためのグループ研究による発表会で、生徒相互によるルーブリック評価を実施した。レーダーチャートにまとめると、テーマ選択や構成、デザインといったポスターの見やすさに関して4班の評価が高かった。その一方で、6班のように発表力に関する評価が低いものもあった。今後、発表の機会や討論の場面を設けて、自己表現力を身に付けさせたい。(グラフ⑧) (定性的評価)
- 地域みらい連携会議構成員全員から高い評価を受けた。いただいた助言は次年度取り入れていきたい。(定性的評価)
- 2学年は北海道大学、上川町との協働事業を行えたが、1学年は上川町の都合で行えなかった。次年度どうするか三者で調整していきたい。
- 1学年の下川実習で事業前と事業後アンケートを行い生徒の変容を分析したが、他事業では実施することができなかった。
- 北海道大学大学院生の研究報告を聞いて、1、2学年に「疑問に思うことを自ら考えることができたか」とアンケートしたところ、「思う52.9%」、「思わない47.1%」となった。また、「質問しようとする力が高まりましたか」という問いには、「思う50.0%」、「思わない50.0%」となり、今後積極性を伸ばしていく必要性を感じた。(グラフ⑨)
- 生徒の関連資格取得状況調査は3月最終週に進路指導部が実施する。(定量的調査)

(3) 実践研究の規模

- カリキュラム・マップに基づいた学年進行での体系的な研究活動が実施できた。
- 下川町森林実習は2ローテーション目が終了し、事業の流れがしっかり定着してきた。この他の事業についても定着してきているので、今後は内容改善に向けて関係機関と協議していく。
- 外部との連携は活発に行われているが、今年度も他学科連携は行えなかった。

(4) 研究成果の普及

- 森林資源活用班のスロープトイが浦和大学「第3回おもちゃコンテスト木材加工部門」について、最優秀賞を受賞した。
- 日本学校農業クラブ北海道連盟主催「全道実績発表大会」において、森林資源活用班が分野Ⅱ類で最優秀賞を受賞し、次年度10月に行われる全国大会出場を決めた。
- 森林科学科のTwitterとFacebookを用いて、各種行事毎に動画を含めた最新情報を発信しているが、閲覧者数がTwitterは129,698、Facebookは12,890となっている(H31.4月～R2.2月までを集計) Twitterの閲覧は本校生徒や中学生、Facebookは関係機関が中心と推測されるが多くの反響を得ていることがわかった。(表②)
- 2月の北海道森林管理局主催「北の国森林づくり技術交流発表会」に5つのプロジェクト専攻班全てが参加し、事例発表とポスター発表を行う予定である。また3月には、愛知県で行われる「日本森林学会高校生ポスター発表」にも2つの専攻班が発表予定である。

(5) 実践研究内容

- 4月からカリキュラムマップに基づき計画的に事業展開をすることができた。
- 今年度も北海道大学、他高校、各連携機関との協働による実践研究を進めることができ、活動の強化が図れた。
- 研究してきたことが全国大会での発表へと繋がってきている。またクラウドを活用した情報が予想以上に生徒や保護者、関係機関にも素早く閲覧されていることが分かった。

(6) 地域みらい連携会議

- 年間を通して3回の会議を計画的に実施できた。北海道大学大学院生による研究報告は、生徒の事業概要に対する理解を深めることができた。次年度についても概ね同様な流れで実施する。

5 プロジェクトの達成状況

(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について

(評価)

一部の生徒に対しては、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながる取組となった。

(評価した理由)

地域連携機関の手厚いサポート体制もあり、3学年実習後のまとめでは、地域に対する理解と感謝を述べる者が多く、関連産業への進路選択者も増えているため。

(2) 【評価の観点】地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について

(評価)

地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。

(評価した理由)

各事業において関係機関と、計画作成から、実施・反省・課題整理まで一貫して情報共有を行っているため。

(3) 【評価の観点】生徒の主体性について

(評価)

生徒は、地域社会の一員としての主体性を持って取り組むことができている。

(理由)

1 学年の調べ学習、2 学年の北海道大学との研究、3 学年のプロジェクト活動など生徒自身の自主性に任せることで、教員の想像以上にレベルの高い活動に展開する場面が見られ、ループリック評価など評価規準を明らかにした上で活動させることで、より生徒が主体的に取り組めているため。

(4) 【評価の観点】地域課題の解決状況について

(評価)

取組により、地域課題の解決につなげることができた。

(理由)

1 学年は地域調査、2 学年は北海道大学の協力を得ての研究活動、3 学年は各専攻班におけるプロジェクト活動と、各学年の学習進度に合わせた研究活動を行うことができていると思われるため。

6 今後の取組

- ・今年度は、年間を通して計画的に事業を展開することができた。次年度は不十分だった部門の修正に取り組み、全体の流れを定着させる。
- ・ICTを活用した素早い情報発信はかなり注目を集めていることがデータ的に明らかになり、それらは生徒、教員のモチベーション向上にも繋がっている。今後も継続的に最新情報を発信する。
- ・1 学年下川実習で事業前と事業後アンケートを行い生徒の変容を分析したが、他では実施できなかった。年度当初に調査事業を絞り実施し、改善に取り組む。
- ・今後も卒業生に対する就職後の定着率とその理由を継続的に調査し、本校のカリキュラムの改善に生かす。
- ・北海道大学大学院生の研究報告を聞いて、「疑問に思う事を質問しよう」と行動する力が高まりましたか」と1、2 学年に聞いたところ、「思う55%」、「思わない45%」となり、もっと積極性を磨けるよう取組を改善する。
- ・プロジェクト専攻班による地域住民への林業・林産業の体験ワークショップをより充実させた企画・運営をする。
- ・年間を通した林業・林産業理解プログラムを充実させ、地域産業への理解を深め、進学・就職する生徒の割合を評価指標に近付ける取組を行う。

7 参考資料

(1) 写真

写真① 神奈川県立横須賀高校林業・木材産業体験講習（令和元年5月29日）



3学年39名が、道外普通高校の生徒に対して、林業に関わるワークショップを5つの専攻班が日頃取り組んでいる内容を活かして行った。

写真② 山の仕事説明会（令和元年度5月30日）



2学年40名が、希望する林業・林産業企業の方々から仕事に関する様々な話を聴き、林業・林産業に対する理解を深めた。

写真③ 旭川デザインウィーク2019（令和元年6月22～23日）



旭川家具最大のイベントにおいて、3学年森林資源活用班10名が製作したスロープトイを展示・公開し、来場者にアンケート調査を行った。

写真④ 「上川林業セミナー」天然生広葉樹の育成について（令和元年6月24日）



2学年40名が上川町で北海道大学北方生物圏フィールド科学センター吉田俊也教授の指導により、かき起こし現場の稚樹同定と苗木の生育調査をグループ毎で行った。

写真⑤ 下川林業実習（令和元年7月11～12日）



3学年39名が下川町で3回目となる林業実習を行った。3年間の実習の総括として、森林調査の他に、伐木・下刈り現場の見学や作業員との懇談、森林管理署やNPO法人の見学を行った。

写真⑥ インターンシップ（令和元年8月27～29日）



2学年40名が、林業・林産業事業体を中心とした3日間のインターンシップを行った。

写真⑦ 十勝岳治山工事現場の見学（令和元年度9月17日）



1 学年40名が、林業公務員との懇談会后、十勝岳噴火の際の泥流防止用砂防ダム建設工事現場を見学した。

写真⑧ 北海道大学大学院生による研究発表（令和元年度10月8日）



1、2 学年が、第2回地域みらい連携会議の中で、北海道大学大学院生による研究報告を聞き、質疑応答を行った。

写真⑨ 旭川農業高校1 学年を対象とした林業学習会（令和元年10月18日）



1 学年40名が上川総合振興局林務課と極東林産の協力により、高性能林業機械への試乗や操作体験を行い、最新林業への理解を深めた。

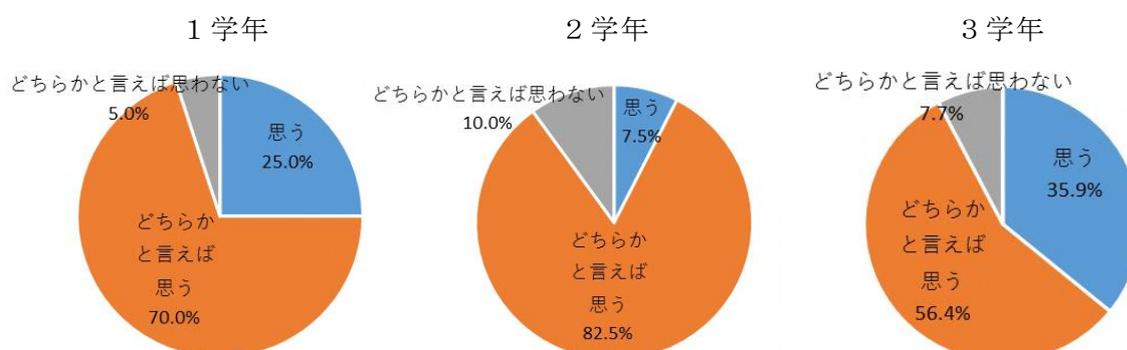
写真⑩ 日本学校農業クラブ北海道連盟全道実績発表大会（令和2年1月30～31日）



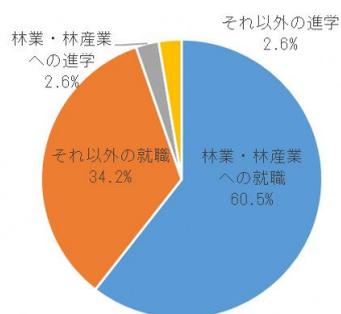
森林資源活用班4名が、日本学校農業クラブ北海道連盟全道実績発表大会に参加し分野Ⅱ類で最優秀賞を受賞した。来年度の全国大会へ北海道代表としての出場を決めた。

(2) グラフ・表

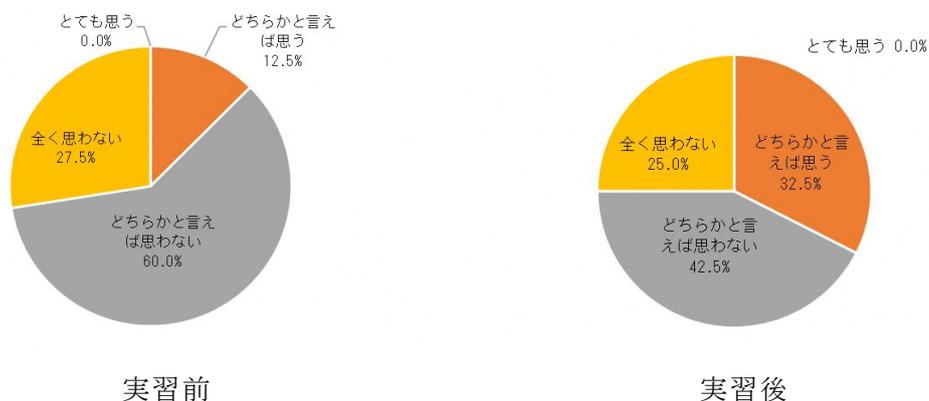
グラフ① 地域産業に対する理解は深まったか？



グラフ② 3学年進路決定先の状況について



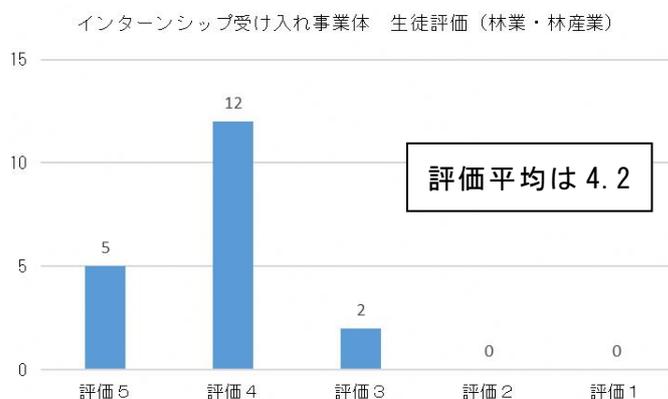
グラフ③ 1学年下川実習事前事後アンケート「将来下川町で働いてみたいと思うか」



実習前

実習後

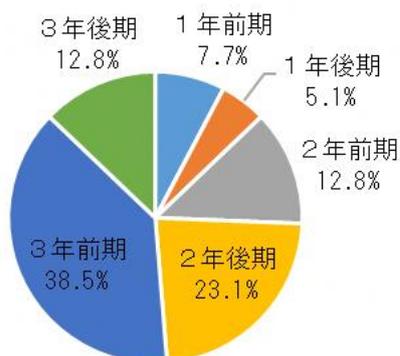
グラフ④ インターンシップ受入事業体による生徒評価（林業・林産業）



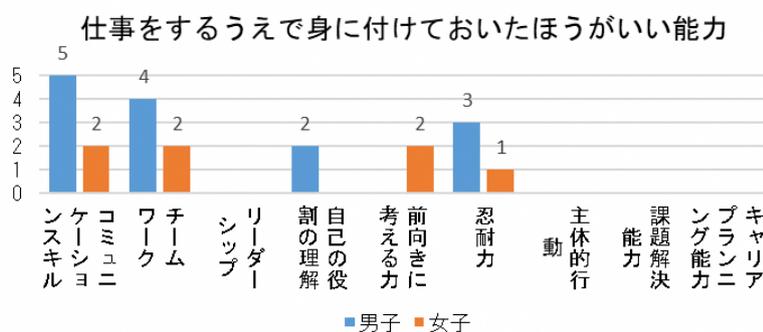
表① 現在考えている進路先及び進路決定先の人数 ()内は%

	進学	就職	公務員	未定	計
1年	6 (15.0)	17 (42.5)	15 (37.5)	3 (7.5)	40 (100)
	(H30 1年次) 4 (10.0)	13 (32.5)	17 (42.5)	6 (15.0)	40 (100)
2年	7 (17.5)	12 (30.0)	18 (45.0)	3 (7.5)	40 (100)
	(H30 1年次) 4 (10.0)	13 (32.5)	17 (42.5)	6 (15.0)	40 (100)
3年	3 (7.7)	22 (56.4)	14 (35.9)	0 (0.0)	39 (100)
	(H30 2年次) 5 (12.8)	19 (48.7)	13 (33.3)	2 (5.1)	39 (100)

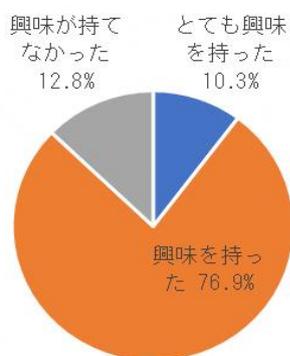
グラフ⑤ あなたの進路先の決定時期は？（対象：3学年）



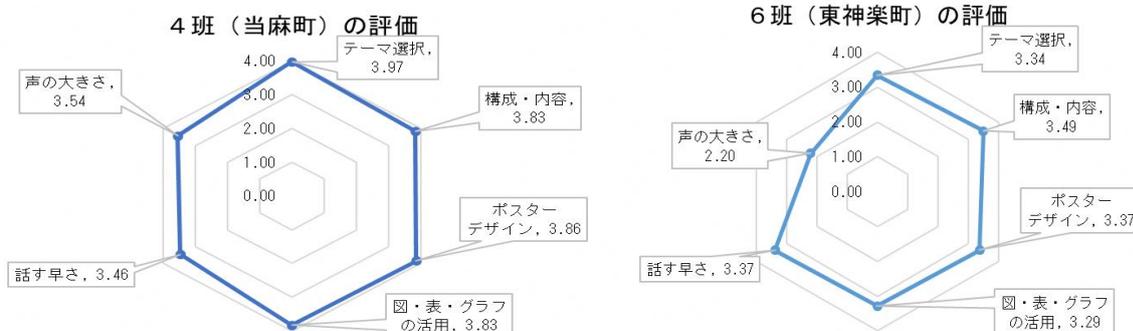
グラフ⑥ 就職した卒業生が仕事をするうえで身に付けておいた方がいいと思う能力



グラフ⑦ 北海道大学との共同研究に興味を持ったか



グラフ⑧ 生徒相互の評価をレーダーチャートにまとめたもの



グラフ⑨ 大学院生の研究報告を聞いて、

○疑問に思うことを自ら考えることができたか ○質問しようとする力が高まったか

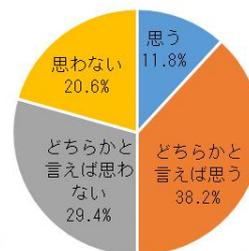
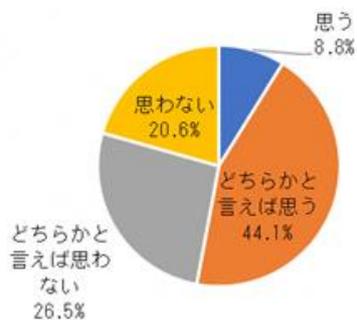


表2 令和元年度 旭川農業高校森林科学科Twitter・Facebook閲覧数

月	本校による ツイート数	Twitter	Facebook
		月ごとの閲覧数	月ごとの閲覧数
4月	5	7,301	479
5月	10	13,521	1,583
6月	11	14,055	2,624
7月	13	12,610	2,293
8月	10	10,581	1,093
9月	5	10,402	924
10月	16	17,399	1,373
11月	7	10,701	591
12月	10	12,171	635
1月	11	18,923	608
2月	1	2,034	687
合計	99	129,698	12,890

(3) 新聞記事

新聞① 北海道通信 (令和元年6月19日)

2、3学年79名が、地域みらい連携会議に参加し、プロジェクトの計画を発表し質疑や助言をいただいた。



新聞② 北海道新聞 (令和元年10月17日)

2019/10/17 道北 (名寄・士別)

植樹作業 難しさ想像以上

旭川農高1年生が野外実習

【下川】旭川農業高森林科の1年生40人が、町内の森林で植樹作業を野外実習を行った。生徒たちは、森林職員の指導を受け、町と同齢なほぼ1年前に林業の担い手育成のために連携協定締結した町内にあり、木材加工施設やトナリ舎を備えた。自然があり、人も良い場所。40代前半から高齢で住む町をイメージして、和室や、義経さんが同地を渡り、17年6月に夫を失った。

ツの甲木の植樹作業を行った。斜度が大きく足場悪く、生徒たちはくわを使って木の間に土を盛り、三上ゆき音さん15は「植樹は初めて。力技で想像以上に難い。隣森に日産施、初日は町の町学べないことが体感できた。大層な15は「学校は有樹高40mのトナリ舎を2日ほど使った。2日ほど町外にある地区にあるイタケ機工場を見学した。鈴木忠也

苗木を植えるためくわで土を盛り、生徒たち

1 学年40名が、下川林業実習で町職員や森林組合職員より植樹法を教してもらいながらトドマツの苗木を植樹した。

新聞③ 北海道新聞 (令和元年12月24日)

木球転がせば…美しい曲♪

旭川農高生製作 スロープトイ 木育に好評

旭川農業高生が製作したスロープトイで遊ぶ旭大幼稚園園児たち

板の厚さで音程調整、全国賞を受賞

旭川農業高生が製作したスロープトイで遊ぶ旭大幼稚園園児たち

板の厚さで音程調整、全国賞を受賞

2 学年森林資源活用班10名が、木育交流学习を行っている旭大幼稚園年長B組園児23名に対して、作成してきたスロープトイを7台並べ自由に遊んでもらい木のよさを伝えた。

新聞④ 北海道新聞 (令和2年2月7日)

旭川農業高生に林業PR

担い手確保推進協がセミナー

林業の担い手育成を目指す旭川周辺地域林業担い手確保推進協議会が、旭川農業高生に林業PRのセミナーを開催した。

旭川農業高生に林業PRのセミナーを開催した。

林業の担い手育成を目指す旭川周辺地域林業担い手確保推進協議会が、旭川農業高生に林業PRのセミナーを開催した。

1、2 学年80名が、旭川周辺地域林業担い手確保推進協議会主催の林業木材産業セミナーに参加し、ワークショップ後、関心のある企業ブースを3ヶ所回って話を聞いた。

新聞⑤ 読売新聞（令和2年2月7日）・北海道新聞（令和2年2月8日）

2020年(令和2年)2月7日(金曜日) 札幌 第1版



旭川農高生の玩具「最優秀」

全道大会 木育班 10月に全国へ

旭川市旭川高等学校の生徒が制作した木製玩具「スロープトイ」が、北海道旭川市で開催された「旭川市木育大会」で最優秀賞を受賞し、10月に開催される全道大会に出場する。この玩具は、木製の板を斜めに並べ、ボールが落ちていく仕組みで、音を出しながら遊ぶことができる。生徒たちは、この玩具を制作する過程で、木の特性を活かしたデザインや、音の調整などに取り組んだ。大会では、多くの作品が展示されたが、この「スロープトイ」が、審査員から高く評価された。生徒たちは、この受賞を機に、10月に開催される全道大会に出場し、全国の優秀な作品と競い合いたいと考えている。

北海道新聞 2020年(令和2年)2月8日(土曜日)



旭川農高生「スロープトイ」全道大会で最優秀賞

10月の全国大会出場へ

旭川市旭川高等学校の生徒が制作した木製玩具「スロープトイ」が、北海道旭川市で開催された「旭川市木育大会」で最優秀賞を受賞し、10月に開催される全道大会に出場する。この玩具は、木製の板を斜めに並べ、ボールが落ちていく仕組みで、音を出しながら遊ぶことができる。生徒たちは、この玩具を制作する過程で、木の特性を活かしたデザインや、音の調整などに取り組んだ。大会では、多くの作品が展示されたが、この「スロープトイ」が、審査員から高く評価された。生徒たちは、この受賞を機に、10月に開催される全道大会に出場し、全国の優秀な作品と競い合いたいと考えている。

2、3学年森林資源活用班4名が日本学校農業クラブ北海道連盟実績発表大会の分野Ⅱ類で最優秀賞を受賞し、来年度10月に静岡で開催される全国大会へ出場を決めた。